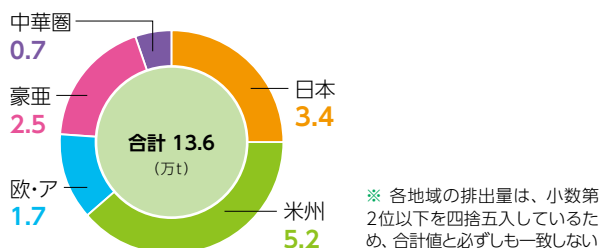


ゼロエミッションを推進し、循環型社会形成に貢献します。

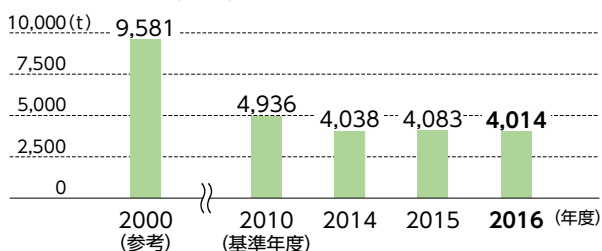
排出物量の削減活動

グローバルにおける2016年度の排出物量は13.6万トンです。今後も各地域の特性を考慮しながら、さらなる削減活動を進めていきます。また国内矢崎グループにおける廃棄物量は、分別や業者変更による廃棄物の有価物化などにより、2010年度比18.7%減の4,014トンとなりました。

地域別の排出物量(万t)



廃棄物量の推移(国内)



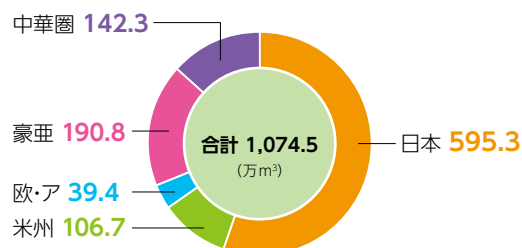
水資源保全の取り組み

矢崎グループでは、2003年度から水使用量の削減活動に取り組んでいます。具体的には、設備の冷却水の再利用、配管や流量計の定期的なメンテナンスによる漏水防止、従業員に対する節水の啓発活動があります。

グローバルにおける2016年度の水使用量は1,074.5万m³となり、前年度比3.2%の増加となりました。これは、生産量が増加したことに起因しています。

2016年度からは『矢崎環境取り組みプラン』に「水資源の有効活用と影響の最小化」を取り組みテーマとして加え、より積極的に活動を推進しています。

地域別の水使用量(万m³)



Topics | リサイクルの実践による従業員の意識向上

プラスチックリサイクルの推進

YCT(ルーマニア)では、年間約443トンのプラスチックを廃棄物として処理しており、このうち3分の1をアクリル樹脂が占めていました。

そこで、アクリル樹脂を成形の際に使用するミルで粉砕しペレットにすることで、再生原料としてリサイクル業者へ売却できるようにしました。これにより、年間約79トンのアクリル樹脂の廃棄物の削減につながりました。今後はアクリル樹脂以外の廃プラスチックのリサイクルにも取り組む予定です。



アクリル樹脂



粉砕されたアクリル樹脂

排水リサイクルの推進

JAI(インドネシア)では、イスラム教の従業員のために事業所内にモスク(礼拝所)を設置しています。礼拝前にはウドゥ(お浄め)に水を使用するため、事業所の水使用量をモニターした結果、モスクからの排水が多いことがわかりました。

そこで2016年8月、貯水槽を設置し、ウドゥで使用した水を植木の水やりに再利用する取り組みを始めました。この取り組みにより1日1,000リットルの水使用量を削減しています。



排水リサイクルを推進する看板